

## 編集後記

大学を卒業後、紆余曲折を経て、こうして学会誌の編集に関わっているのは、何かの縁があったからなのかもしれません。思えば、学会誌との出会いは大学4回生の時でした。当時は退官を控えた教授の下、プラズマ診断に用いる負イオン源の研究開発に取り組んでいました。市立大学で、研究予算は乏しく、「研究に必要なものは自分で作る」という方針のもと、先生から最初に指導いただいたのは、旋盤やボール盤といった工作機械の使い方でした。これらの工作機械を駆使して、偏向用電磁石やビーム引き出し/静電レンズ用高電圧電源、窒化ボロンを加工した電流導入口など、実験に必要なものはすべて自作しました。しかし、その覚束ない手つきをみて不安になったのか、実験を始めると先生はいつも現場に来てくれました。実験研究を通じて先生から受ける指導は、大学の授業や教科書では学ぶことができない現場の知識や技術であり、「研究開発は失敗の積み重ね」という貴重な経験でした。短い間でしたが、ここで先生から学んだことは今も私を支えてくれます。

そんなある日、いつものように実験をしていると先生が

ふとこう言いました

「わしは核融合研究の第一世代や、あんたは第四世代やな」

実現までに長い年月を要する核融合研究にとって、これまでに得られた現場の知識や技術、経験を次の世代に伝えることは、科学検証からものづくり（工学実証）の時代に移るにつれてとても大切なことだと感じます。

先生がこの世を旅立たれて10年以上が経ちました。先生から受け取った（と思っている）バトンを次の世代に渡すことも、私に与えられた使命であり、先生への恩返しになるのかな、と思う今日この頃です。

偶然にも、この学会誌を手にした若者がいたならば、“あんた”も核融合研究への扉を叩いてみませんか？

叩けよ、さらば開かれん

求めよ、さらば与えられん

（新約聖書「マタイによる福音書」第7章より）

（田中将裕）

### プラズマ・核融合学会役員

会 長	小川 雄一	副会長	斧 高一	二宮 博正（推薦委員長）	常務理事	西村 新（総務委員長）
理 事	疇地 宏		安藤 晃		石原 修（研究部会連絡委員長）	
	上杉 喜彦		甲斐 俊也		小森 彰夫（支部・地区研究連絡会委員長）	
	坂本 慶司（広報委員長）		清水 克祐（財務委員長）		白谷 正治（年会運営委員長）	
	永津 雅章（企画委員長）		福山 淳		堀池 寛	
	山崎 耕造		米田 仁紀（編集委員長）			
監 事	市村 真		中澤 一郎			

### プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：米田仁紀（電通大） 副委員長：上杉喜彦（金沢大）

エディタ：安藤 晃（東北大）、坂本瑞樹（筑波大）、中村祐司（京大）、村上匡且（阪大）、室賀健夫（核融合研）、佐々木浩一（北大）

編集委員：石田 學（JAXA）、伊藤剛仁（阪大）、井 通暁（東大）、今井 誠（京大）、岩本晃史（核融合研）、大場恭子（東工大）、岡本 敦（東北大）、梶村好宏（明石高専）、菊池崇志（長岡技科大）、古賀麻由子（兵庫県立大）、佐々木 明（原子力機構）、佐竹真介（核融合研）、佐藤正泰（高度情報科学技術研究機構）、杉山貴彦（名大）、高橋和生（京都工繊大）、田中将裕（核融合研）、土屋 文（名城大）、成嶋吉朗（核融合研）、長谷川裕記（核融合研）、廣瀬貴規（原子力機構）、福山隆雄（長崎大）、藤澤彰英（九大）、松浦寛人（大阪府立大）、村中崇信（中京大）、籾内俊毅（阪大）、山田英明（産総研）、山家清之（新潟大）

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

### プラズマ・核融合学会誌第89巻第4号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市中種区内山3丁目1-1 4階

印刷 株式会社荒川印刷

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

2013年（平成25年）4月25日

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,365円（本体1,300円）

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。